

# 小高志

No.1

2015年6月

小高地域構想ワーキンググループ  
(小高区地域協議会)



小高を再構成するために



## ごあいさつ

今も尚、多くの小高区民が避難をよぎなくされています。

様々な想いの中、

南相馬市は二〇一六年四月という

**避難指示解除目標**を発表しました。

すでに一年を切っています。

私達ワーキンググループ仲間は小高の復興のあり方を、実現に向けて一つ一つ丁寧に議論していくべきと考えています。

小高区地域協議会の提案を受けて、

二〇一四年十一月より、住民を中心に、

小高の復興に関心を持つ人々が集まり、

市民と行政が同じ目線で、

これからのまちづくりを話し合う場をつくりました。

それが小高地域構想ワーキンググループです。

小高区全体はもちろん、

相双地域を見渡し、過去から未来を見据え、

笑顔に満ちあふれた穏やかな日常を

取り戻したいと思っています。

# 小高地域構想 ワーキンググループの 特徴

## 地域構想を住民が つくり実践する

南相馬市全体の計画は、行政主導で進んでいます。それだけでは手の届かない所を、住民自らが実践していくための地域構想を、住民自身を中心となって、小高区役所と共につくっています。

## どなたでも 参加大歓迎

ワーキンググループには、「小高をなんとかしたい」「小高が好き」「色々な人と話したい」…様々な想いの人がいます。住民だけでなく、多様な立場の方が集まって話をする自由な場です。

## 情報発信と 共有ができる

事業の実践者の話、小高の懐かしい話、色々な行政区の話、自分は〇〇に関心があり、こういうことがしたい…等、毎回のテーマは様々です。話し合ったことは、「小高志」でお伝えしていきたいと思っています。



二〇一五年度も同様の取り組みは続きます。  
皆さまのご参加を心待ちにしています。  
どうぞお気軽にいらしてください。

小高地域構想ワーキンググループ

阿部治幸

(平成二十六～七年度小高区地域協議会委員)

窪田亜矢

(東京大学地域デザイン研究室)

## 小高の 地域構想とは？

小高には、  
生まれ育ったまちや  
子どもたちのために  
必死に行動してきた人たちがいる。  
震災後四年を経て、  
走り続けることに疲れてきた人、  
何か行動に移したいけれど  
一人では何をやらたらいいのか  
分からないという人もいる。

小高の地域構想とは、  
そういった人と人とを結びつけ、  
再興に成り得るよう、  
話し合う場でもあるのです。

そのために必要な考え方を、  
ワーキンググループでの  
議論に基づき、  
七つの柱として整理しました。

## ワーキンググループの 開催記録

### 第一回

二〇一四年十二月二十日（日）  
自己紹介をして、それぞれの思いを語った。

### 第二回

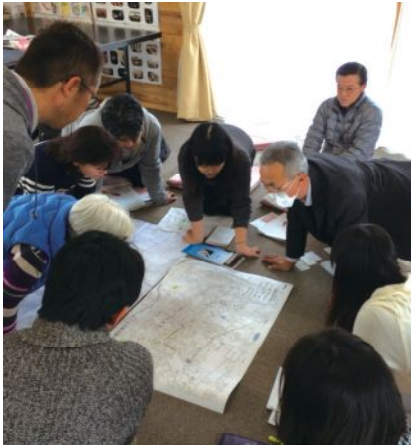
二〇一五年二月一日（日）  
時間軸ワークショップにて、それぞれの人生と、  
小高のまちの歴史を重ね合わせた。

### 第三回

二月二十一日（日）  
小高のまちなかの暮らし、小高を再構成するた  
めの五本の柱について、話し合った。

### 第四回

三月二十二日（日）  
二〇一五年ワーキンググループの目標、小高を  
再構成するための七本の柱、小高でしたいこと  
と課題について、話し合った。



▲小高区民、区役所職員、大学、国の職員など、  
老若男女が立場を超えて、地図や模型の周りで話し  
合いました。

## 様々な災害を 乗り越えてきた 小高の歴史

地形地質に依る生業に  
基づいた生活単位

### 飢饉

被災前の状況  
天明から天保の  
大飢饉への備え  
被災後の状況

### 洪水

被災前の状況  
小高川の付け替え、  
河川改修  
被災後の状況

### 政策転換

被災前の状況  
減反政策への対応として、  
酪農研究会  
被災後の状況

### 産業空洞化

被災前の状況  
個人作業所の創業  
被災後の状況

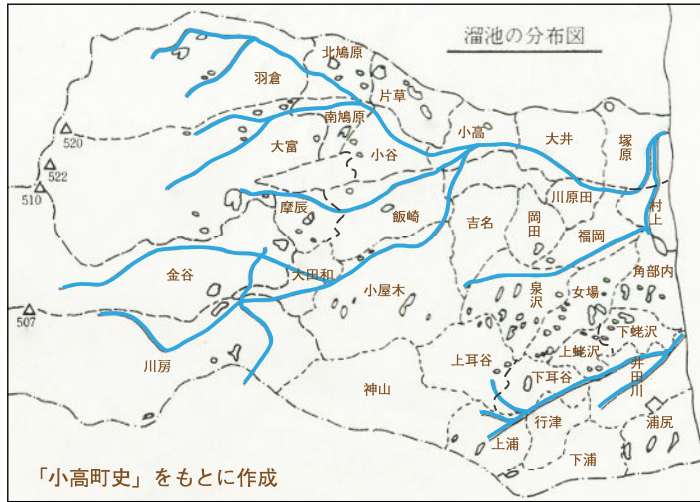
### 原発事故 地震津波

東日本大震災

皆さん小高の  
どこかわかりますか？



▲まちなかの復興まつりや各在の聖なる場所、印象的な地形に織り込まれた風景、どれも大切な小高です。



▲地形や地質、生業に沿って集落が形成されてきました。

多様な在から  
成る小高



▲浪江から原町までの模型を使って小高の将来を考えていきます。

二〇二七年春

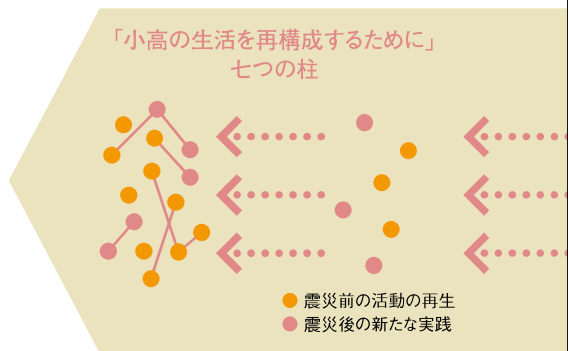
二〇二六年春



廃炉達成

浪江町・避難指示解除想定

避難指示解除目標



# 小高の生活を 再構成するために 七つの柱

## 多様な在から成る

東西約二〇キロメートル、高低差五百メートル、多様な行政区には、自治の仕組みと文化があります。震災を契機に、失われつつもあります。小高らしいゆたかさを認識し、共有することに意義があります。

## これまでの蓄積を活かす

歴史的な建造物、養蚕や機織りの記憶は、過去の蓄積です。これらは小高らしさの要素であり、小高再出発の原動力となるでしょう。

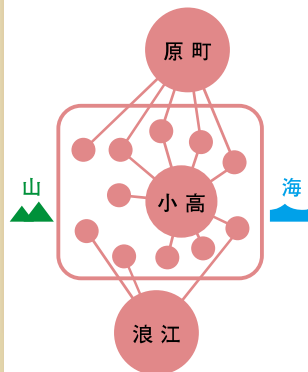


## まちなかが再生拠点 小高区の支柱となる

在と小高のまちなかの関係の深さは多様でした。在がまちなかを支え、まちなかが在を支えていた時代もありました。避難指示解除後の拠点として、まちなかの役割が重要です。

### 小高の まちなか

小高神社	病院
浮舟文化会館	区役所
スーパー	駅
商店街	学校
幼稚園	



## 新たな生業に挑戦する

小高は、農業、漁業、絹業、流通、工業：厳しい状況に際して新たな産業や知恵で乗り越えてきました。たとえば大富では、農業不振の中で酪農研究会を組織し、成功してきました。



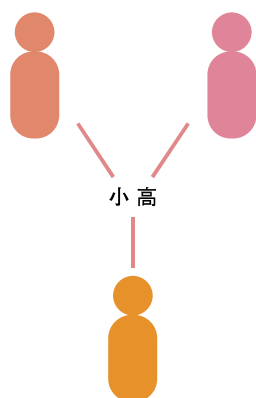
## 活動が芽生える

人が集う場や情報を共有する場ができ、再開した店や事務所もあります。漁業や酪農を再開する決意をしている人もいます。小高の将来像は、そうした活動の先にあります。



## 人と小高の、 いろいろな繋がりをもち

小高への想いは人によって様々ある中で、それぞれに合った形で、まちとの関係を育みたい。未成年世代との丁寧な対話も重要です。



## 災害・放射線リスクに 向き合う

将来世代のためにも、放射能汚染のリスクとの向き合い方を模索しつつ、度重なる災害を乗り越えてきた経験に、また一つ、知となるものを残したいものです。

災害	対応例
飢饉	蔵
水害	川の改修
火災	道路拡幅
放射能	???



## ワーキンググループの 予定

七月四日 十四時から 小高駅前通りにて

商店街には、お店を再開したり、新たに  
商売をはじめた方がいます。

小高駅前通りを中心に、歴史的建造物の  
専門家の話を聞きながら、建物を空き家に  
せずに活かしていく方法やこれからのま  
なかを、皆で考えませんか。

八月二日 十三時から 大富にて

大富には、酪農の再生に取り組む方がい  
ます。一方で、帰還を心配する方もいます。

そこで、放射線モニタリングをしている  
専門家をお招きして、この地どう向き合っ  
てのぞんでいくのか、一人で悩まずに直接、  
伺ってみませんか。関心のある皆様、是非  
いらしてください。

ワーキンググループで何をやるのか、  
アイデア大募集中です！  
どなたも大歓迎です。  
ぜひ、ご参加ください。

### 小高地域構想ワーキンググループ (小高区地域協議会)

東京大学 工学部都市工学科 地域デザイン研究室

03-5841-1845 odaka@td.t.u-tokyo.ac.jp

南相馬市小高区地域振興課

0244-44-6716